

今回山形短観における主な判断、事業計画の動き

(2017年12月調査)

1. 業況判断

12月調査では、非製造業は前回調査から横ばいだったものの、製造業が悪化したため、全産業では13と前回調査から▲2ポイント悪化した。因みに、前回調査では悪化、水準は6を予測していた。

製造業・・・化学などが悪化したため、全体では13と前回調査から▲4ポイントの悪化となった。前回調査では▲6ポイントの悪化を予測していた。

非製造業・・・卸・小売、対事業所サービスは悪化したものの、建設、宿泊・飲食・対個人サービスが改善したため、全体では12と前回調査から横ばいとなった。前回調査では▲10ポイントの悪化を予測していた。

先行き(2018年3月予測)は、非製造業は悪化するものの、製造業が改善するため、全産業では横ばいを予測。

2. 需給・在庫・価格判断

国内での製商品・サービス需給(製造業)・・・「供給」超幅は横ばい。

製商品在庫水準(製造業)・・・「過大」超幅が拡大。

販売価格(全産業)・・・「上昇」超に転化。

仕入価格(全産業)・・・「上昇」超幅は拡大。

3. 売上・収益計画

(1) 売上高

2017年度(計画)は、製造業、非製造業とも前年度比1.3%の増収となり、全産業でも同1.3%の増収計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率0.8%)、非製造業(同0.2%)とも上方修正されたため、全産業では0.5%の上方修正となった。

(2) 経常利益

2017年度(計画)は、製造業は前年度比▲15.6%、非製造業は同▲8.5%の減益となり、全産業では同▲13.7%の減益計画。

前回調査との比較では、製造業(修正率3.5%)は上方修正されたものの、

非製造業（同▲10.3%）は下方修正されたため、全産業では▲0.9%の下方修正となった。

4. 設備投資計画等

（1）設備投資額（含む土地投資額）

2017年度（計画）は、製造業は前年度比66.9%、非製造業は同16.1%の増加となり、全産業では同44.8%の増加計画。

前回調査との比較では、製造業（修正率▲0.8%）は下方修正されたものの、非製造業（同4.8%）は上方修正されたため、全産業では1.1%の上方修正となった。

（2）生産・営業用設備判断

生産・営業用設備・・・非製造業の「不足」超幅は縮小したものの、製造業が「不足」超に転化したため、全産業の「不足」超幅は▲8と前回調査比拡大。

5. 雇用

雇用人員判断・・・非製造業の「不足」超幅は縮小したものの、製造業の「不足」超幅は拡大したため、全産業の「不足」超幅は▲30と前回調査比横ばい。先行き（2018年3月予測）の「不足」超幅は拡大を予測。

新卒採用計画（全産業）・・・2017年度、2018年度とも上方修正。

6. 企業金融

資金繰り判断（全産業）・・・・・・・・・・「楽である」超幅が縮小。

金融機関の貸出態度判断（全産業）・・・・・「緩い」超幅が縮小。

借入金利水準判断（全産業）・・・・・・・・・・「低下」超幅が縮小。

以 上